

『「**計算力実態調査**」を生かす』

**計算力実態調査委員会 担当副部長 浜松市立中郡小学校 北村 祐大**

年度初めの御多用の中、計算力実態調査に御協力いただき、ありがとうございました。

この調査は、年度当初に算数科の基礎・基本である数概念や計算力の実態を把握し、1年間の指導に生かしていくために実施しています。

5月には「令和4年度計算力実態調査第1次報告書」を送付させていただきました。自校の結果と比較しながら御活用ください。

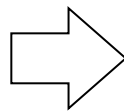
そして、今年度の結果の中から2年生<sup>⑩</sup>の問題に注目しました。昨年度の問題作成の際に検討し、下のように変更した問題です。どこを変更したでしょうか。

8 みかんが 5こ、りんごが 12こ  
あります。  
どちらが なんこ おおいでしょうか。


しき

こたえ  
 が  こ おおい。 \*

【令和4年度の問題】



8 りんごが 4こ、みかんが 11こ  
あります。  
どちらが なんこ おおいでしょうか。



しき

こたえ  
 が  こ おおい。 \*

【令和5年度の問題】

実は、文章問題に絵を付け加えてみました。この問題は、毎年正答率があまり高くない問題で、問題場面が把握できていないことが原因だろうと考えられていました。そこで、作成する段階で、絵を加えることで問題場面を分かりやすくしたら、正答率がどのくらい上昇するのかを見てみようということになりました。ところが、結果は昨年度よりも正答率が2%下がるという結果になりました。（令和4年度正答率81%→令和5年度正答率79%）

この記事を読んでいるみなさんは、どうして正答率が上がらなかったと考えますか？

子供たちは、私たちが思っている以上に、文章と絵を結び付けていない、結び付けることができていないのではないかと思います。文章問題を解くときや新しい単元の初めの方では、図や絵をかいて立式させたり、答えを求めさせたりします。しかし、それが実際にテストやドリル類の問題を解くときに活用できていないということも考えられると思います。絵を見て、りんごとみかんを一対一対応させ、斜線を引いて答えを求めたり確かめたりすることもできますが、そのようなことをする子供はほとんどいません。おそらく絵は見ずに、文章だけを読んで考えている。子供によっては文章の中の数字だけを見て考えているのではないかと思います。

「数と計算」の領域において、計算ができるようになるために、計算練習に重きを置きすぎているかどうか日々の実践を顧みる必要があるかもしれません。もちろん計算ができるようになるために、反復練習は大切なことです。しかし、筋道立てて考えられる力を付けること、学習したことを活用できる力を付けることなども大切なことではないでしょうか。計算力実態調査の計算力からは、少しずつれてしまっているかもしれませんが、書かせていただきました。これからもこの計算力実態調査が日々の実践に活用できるよう、研修を重ねてまいりたいと思います。

## 複式学年別学習

3年 たしざんとひきざん

4年 わり算の筆算

浜松市立水窪小学校 東原弘貴

水窪小の3、4年生は、算数科の授業を複式学年別授業で行っています。同じ教室で、各学年の学習内容を進めます。T1がそれぞれの授業の進行、T2が子供の支援に入ります。2学年の学習を並行して行うため、子供たちが自分たちで学習を進められるように以下のことに気を付けて、授業を進めています。

### ①授業の流れをつくる。

課題の把握→個別の学習→考えの交流→意見の集約→まとめ・ふり返りという学習の流れを作ること、子供がいつ、何をすれば良いのかの見通しをもてるようにしています。

### ②個別の学習への支援

子供の学習状況の見取りをT1、T2で共有します。前時や本時の様子を確認し、子供への支援や声掛けを行っています。

### ③意見集約の視点の明確化

全員で自分の考えを発表し、話し合いを行っています。今回の計算領域では、「は・か・せ」の考え方を意見集約の視点として利用しました。

以上のように複式学年別授業でも、通常の算数の授業の進め方と大きな違いはありません。特に、授業の流れを作ること、人数に関係なくできることだと考えられるので、定着を図っていきます。これからも、少人数の学習集団でも話し合いができ、自分の考えを深めることができるように、日々の授業を進めていきたいと考えています。

## 第2回 浜松市教育研究会 算数科研究部研修会のお知らせ

1 日時 令和5年8月1日(火) 13:00~16:30

2 会場 浜松市教育会館

3 内容 ○講演会 静岡大学 熊倉 啓之 氏  
○演題 「数学的な見方・考え方を大切にしたい算数指導とは  
～割合の指導に焦点を当てて～」

#### ○実践発表

発表者 高橋 遼平(中ノ町小) 中村 和樹(伎倍小)  
指導助言者 原 欣嗣 教頭(中瀬小) 山下 淳 教頭(入野小)

4 その他 ○今回の役員当番部会は、1部会です。1部会の先生方には詳細をミライムにて別途お知らせしますので、よろしく願いいたします。

担当 笠井小 鈴木 慎也